

君津地域水稻情報 「あぜみち第3報」

平成 25 年 6 月 28 日 君津農業事務所 改良普及課
 電話 0438-23-0299 FAX 0438-23-6698
 ホームページ <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/>

★幼穂形成期は平年より2～4日早くなっています。

★幼穂を確認し、生育に応じて穂肥を施用しましょう。

1 君津地域の生育概況

6月中旬以降の日照不足により、草丈が高くやや軟弱徒長気味な生育となっているほ場がありますが、生育は平年より進んでおり、幼穂形成期は平年より2～4日早くなっています。

「ふさおとめ」「ふさこがね」は穂肥の施用時期を迎えています。4月20日植えの「コシヒカリ」は既に幼穂形成期に入っていますので、幼穂長、生育状況を確認し、穂肥を施用してください。

4月20日植えの各品種の出穂期は、「ふさおとめ」が7月13日頃、「ふさこがね」が7月14日頃、「コシヒカリ」が7月18日頃と予測されます。

現在の生育状況は、次のとおりです。

- ① 幼穂形成期は、平年より早くなっています。
- ② 草丈は平年並み～高くなっています。
- ③ 茎数は平年より多くなっています。
- ④ 葉色は平年並み～やや濃くなっています。

2 県調査ほの調査結果（幼穂形成期調査）

品種	年	田植え日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (/株)	茎数 (/㎡)	単葉葉色 (SPAD)	幼穂形成期※
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	25	4/18	11.7	63.4	44.7	684	46.9	6/18
	平年	4/16	11.4	55.8	42.0	623	44.0	6/20
	平年比	+2	+0.3	+7.6	+2.7	+61	+2.9	-2
ふさこがね (君津市)	25	4/22	11.0	55.3	34.3	648	39.6	6/19
	平年	4/19	10.6	55.1	31.1	606	43.2	6/22
	平年比	+3	+0.4	+0.2	+3.2	+42	-3.6	-3
コシヒカリ (君津市)	25	4/24	10.4	72.3	34.6	637	36.9	6/23
	平年	4/20	10.6	64.0	29.8	571	33.8	6/27
	平年比	+4	-0.2	+8.3	+4.8	+66	+3.1	-4
コシヒカリ (君津市) (一発肥料)	25	5/2	10.7	65.8	31.0	471	37.6	6/27
コシヒカリ (一発肥料) (富津市)	25	4/19	10.6	73.6	34.5	593	37.9	6/24
	平年	4/22	10.4	67.7	32.3	573	37.8	6/27
	平年比	-3	+0.2	+5.9	+2.2	+20	+0.1	-3

※ 幼穂形成期は、幼穂長 1mm となった時で、出穂の 25 日前にあたります。

3 これからの管理のポイント

① 品種別の幼穂形成期と冷害危険期の予測

品種	植付時期	幼穂形成期	冷害危険期予測※1	出穂期予測※2
ふさおとめ	4月20日	6月18日	6月28日頃	7月13日
ふさこがね	4月20日	6月19日	6月29日頃	7月14日
コシヒカリ	4月20日	6月23日	7月 3日頃	7月18日
	5月 1日	6月27日	7月 7日頃	7月22日

※1 冷害危険期は予測日から8日間です ※2 出穂期は実測幼穂長からの推定

② 幼穂を確認したら湛水管理を始めましょう

中干しから出穂後までの水管理は以下のとおりですが、特に「2」は自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。「安心・安全」な米作りのために注意して管理しましょう。

1 中干しは幼穂形成期に入ったら終了し、以降、出穂3週間前までは間断かんがい

2 出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理

(幼穂を確認したら、この期間は田面が露出しないように管理する。また、基肥一発肥料を使用している場合も忘れずに湛水する)

3 出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがい

③ 「コシヒカリ」の穂肥

「コシヒカリ」は「ふさおとめ」や「ふさこがね」と比べ倒伏しやすいので、穂肥は幼穂形成期の葉色、莖数、及び草丈から総合的に診断し、慎重に施用しましょう。

幼穂形成期における生育量が適正範囲内であれば、出穂前約18日に当たる幼穂長1cmの時(4月20日植え「コシヒカリ」で6月30日～7月2日頃)に窒素成分で3kg/10a程度を施用します。葉色が濃く、草丈が70～75cmの場合には、穂肥を減量するか時期を遅らせます。

○幼穂形成期における「コシヒカリ」の穂肥、倒伏軽減剤の要否判定

生育量(群落葉色× ㎡当たり莖数の値)	少 (2,000以下)	適正 (2,000～2,500)	多 (目安として2,500以上)	
	70cm未満		75cm未満	75cm以上
対策	穂肥の増量、 または時期を 2～3日早める	出穂前18日に 窒素成分で 3kg/10aを施用	穂肥の減量(窒素 成分で1～2kg /10a)、または 時期を遅らせる	穂肥は施用せず 倒伏軽減剤のみ 施用する

※ 群落葉色は、葉色票(富士葉色カラースケール)での葉色値。

④ 斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類の成虫は水稻の出穂後に水田に侵入して産卵し、それらの幼虫が乳熟期～糊熟期に籾を吸汁することで斑点米が発生します。6月12日発表の病害虫発生予報では、カスミカメムシ類の多発生が予想されています。出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田の中に追い込んでしまいますので、畦畔雑草は出穂2週間前頃までに刈り取りましょう。また、侵入した成虫は早めに下記薬剤等で防除しましょう。

【カメムシ類の主な防除薬剤】

MR.ジョーカー粉剤DL、エルサンバッサ粉剤20DL、キラップ粒剤、スタークル(アルバリン)粒剤、スタークル豆つぶ

※ 次号は「7月31日頃」発行予定